

レクチャー2 13:50-14:30 (第2 Zoom 会場)

問題のある研修医にどう対応するか？

○ 長崎一哉（水戸協同病院総合診療科）

チーフレジデントは研修医から日々多くの相談を受けます。相談の内容は臨床上の疑問はもちろんのこと、個人的な相談、さらには精神的なサポートを求められることもあります。加えて、研修医に関する相談や意見を他の医療職から聞く機会も多いと思います。その中で、チーフレジデントは「問題のある研修医（Problem Resident or Resident with a Problem）」を第一線で支える立場になります。

さて、チーフレジデントとして問題を抱えた研修医の対応をする場合、まず何をすべきでしょうか。慣れないうちは、チーフレジデント一人で抱え込んでしまったり、逆にそのまま誰かに委任してしまったりしがちですが、これはどちらも間違いです。このレクチャーでは、実践しやすい「トリアージと初期対応」を中心に解説します。

チーフレジデントには問題のある研修医に対応できる能力が必要です。問題を放置すれば、研修医自身の今後の研修やキャリアへ多大な影響が出る可能性があり、周囲への影響も大きいです。このレクチャーを通じて、次期チーフレジデントとして、この問題に対応できるためのスキルを伝授します。

長崎一哉（水戸協同病院総合診療科指導医、JACRA 共同代表）

愛知県出身。2013年、名古屋市立大学医学部卒。名古屋記念病院で初期研修後、2015年より水戸協同病院総合診療科に勤務。2018年より同院チーフレジデント。同年、米ハーバード大学医学部 ICRT (Introduction to Clinical Research Training) プログラムを修了。2019年、日本チーフレジデント協会 (JACRA) を共同で設立。2020年より筑波大学社会人大学院生。日本病院総合診療医学会および日本医学教育学会若手部会所属。病院総合医として臨床、教育、そして研究に力を入れていきます。